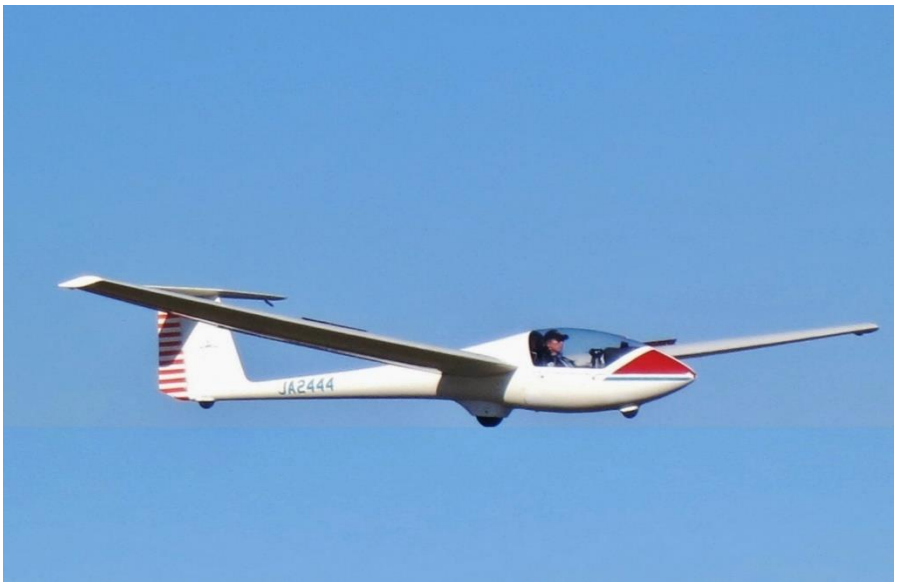
平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月
公益社団法人　日本グライダークラブの記録



クラブホームページ　　www.glider.jp

公益社団法人日本グライダークラブ定款より

（目　　的）
第　3　条　　本クラブは、青少年を始め、大空に憧れを抱く者に対し、体験搭乗及び操縦・整備技術などの指導・教育を通し、航空知識の普及とこれらの伝承を行うと共に国際交流を行い、グライダースポーツ文化の向上・振興を図り、もってわが国グライダー界の発展に資することを目的とする。

（事　　業）
第　4　条　　本クラブは前条の目的を達成するために、次の事業を行う。

（1）グライダーの啓蒙･啓発･普及に関する事業
（2）グライダー及び曳航機の操縦技術の向上及びその指導者の養成
（3）グライダーの操縦技術、整備技術等、及び安全運行・事故防止対策に関する研究並びにその施策
（4）グライダー及び関係する装備・計器などの設計・制作・整備・修理・改造
（5）この事業に必要な機材、施設、設備などの整備、及び人材の養成
（6）その他本クラブの目的を達成するために必要な事業

Club Operation in Apr.2017～Mar.2018

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月　公益社団法人日本グライダークラブ事業報告書

平成 30 年 4 月 1 日
公益社団法人日本グライダークラブ
理事長　吉田　正

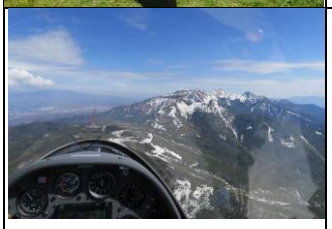
公益社団法人日本グライダークラブは、内閣府所管のもと、航空の安全の促進と発展を目的として設立された公益社団法人です。当クラブでは定款に掲げる理念に基づき、平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月期は下記の通り、公益事業をはじめとした様々な活動を実施しました。平成 30 年度も引き続き公益事業を積極的に推進する所存ですので、クラブの活動と運営に皆様のご理解とご協力をよろしくお願い致します。

A. 公益目的事業 1（公1）グライダーの操縦・整備技術の研究・伝承と指導者の養成

Ⅰ. グライダー普及のための体験搭乗会

	「グライダー体験搭乗会」「家族友人搭乗会」 期　　間 :平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月の各 週末・祭日 （家族友人搭乗会は第 3 日曜日に設定） 主　　催 :公益社団法人　日本グライダークラブ 参加人数 : 78 名 概　　要 :クラブのホームページなどを見て来場した体験搭乗希望者に対し 1 日につき 1～4 名の体験搭乗を行い、また家族友人搭乗会も設定し、グライダーおよびクラブの活動への理解を深めた。

Ⅱ. グライダーおよびモーターグライダー操縦士の育成

	1.「グライダー操縦士の育成」 期　　間 :平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月の各週末、祭日 参加人数 :練習生 8 名 概　　要 :グライダー技能証明取得のための学科および操縦技術について、座学および飛行訓練を行った。
	**2.**「クロスカントリーおよびウエーブフライトパイロットの育成」 期　　間 :平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月の週末および祭日 参加人数 :15 名 概　　要 :高性能複座機を使用して経験豊かな教官の指導のもと、ウェーブ（山岳波）、コンバージェンス（大気の集束帯）等を利用して長距離、高高度飛行の訓練を行った。
	3.「エアロバティックフライトパイロットの育成」 期　　間 :平成 29 年 4 月～平成 29 年 12 月の各週末、祭日 参加人数 :7 名 概　　要 :世界選手権出場予定の操縦士を含め、グライダー曲技の訓練を曲技専用グライダー「MDM-1 フォックス」を使用して行った。

Ⅲ. グライダーの普及ならびに飛行技術の向上を図るための講習会

1. 「指定養成入所準備コース」

期　　間 :5 月 5 日～6 月 17 日（7 日間）
参加人数 :2 名
概　　要 :操縦練習生を対象として指定養成入所のための講習を行った。

2.「自家用操縦士(上級滑空機)の指定養成コース開設」

期　　間 :平成 29 年 6 月 11 日～7 月 22 日（9 日間）
参加人数 :2 名(インストラクター3 名)
概　　要 :自家用操縦士技能証明取得のための指定養成コース(第 2 期)が開設され、7 月 22 日の実地試験で 2 名が合格した。

3.「事業用･教育証明受験準備講習会」

期　　間 :平成 29 年 12 月 23･24 日、 平成 30 年 1 月 6･7 日
参加人数 :32 名
概　　要 :安全飛行のための、より高度な指導技術を有する指導者の養成を目的とした講習を行った。

4. 「異常姿勢回避（EMFT）およびベーシックエアロバティック講習会」

期　　間 :平成 29 年 11 月 3･4 日、 12 月 9･10 日
参加人数 :23 名 （座学および実地訓練）
概　　要 :錐もみからの回復を含む異常姿勢回避訓練、およびベーシック曲技課目の学科･実技の講習会が、G103A と MDA-1 フォックスを使用して開催された。

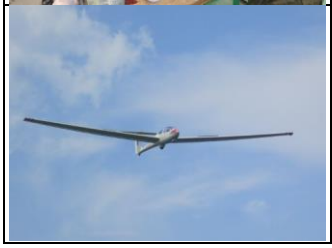
5. 「板倉安全会議」

期　　間 :平成 29 年 12 月 16 日
参加人数 :21 名
概　　要 :1 年間の板倉滑空場で発生したヒヤリハット、インシデントおよび過去の事故事例を振り返る学びの場を設定した。

6.「整備講習会」

① 二等航空運航整備士（上級滑空機） 講習会
期　　間 :平成 29 年 5 月 4 日･5 日、8 月 13 日･14 日、10 月 21 日･22 日
参加人数 :4 名
概　　要 :平成 29 年 8 月 15 日、10 月 23 日、4 名が実地試験に合格した。

② FRP 修理講習会
期　　間 :平成 29 年 10 月 7 日･8 日
参加人数 :3 名
概　　要 :FRP 修理の基本から仕上げまでを学ぶ講習会が開催された。



7.「特定操縦技能審査講習会」

期　　間 : 平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月の各月末
参加人数: 13 名
概　　要 : 法制化された特定操縦技能審査（機長として飛行する操縦は 2 年毎に受験が義務づけられる） の受験準備講習会を開催した。

Ⅳ. 競技会の開催

	1.「第 7 回 OLC 藤倉記念チャリティーカップ」滑空競技会 期　　間 ： 平成 28 年 9 月 22 日～平成 29 年 9 月 25 日 主　　催 ： 公益社団法人　日本グライダークラブ 参加人数 ： 119 名（国内 22 のグライダークラブ） 概　　要 ： 競技飛行の普及と滑翔技術の向上を目的として、全国のグライダーパイロットが参加する第 7 回 OLC（オンラインコンテスト）藤倉記念チャリティーカップを開催した。
	2. 平成 29 年度「OLC 板倉マンスリーコンペ」滑空競技会 期　　間 ： 平成 28 年 12 月～平成 29 年 11 月 参加人数 ： 33 名 概　　要 ： グライダーの安全飛行のための基礎的な滑空気象の解析能力、および野外滑翔技術の向上を図る目的で、板倉滑空場をベースとして活動するグライダーパイロットを対象として、OLC を利用した月間競技会を開催した。
	3. 平成 29 年度「ゴールデンウイークコンペ」 期　　間 :4 月 29 日～5 月 6 日（6 日間） 参加人数 :16 名 概　　要 :5 月の連休を利用してクラブ内で競技会を開催した。

Ⅴ. グライダーの操縦技術、安全運航、事故防止対策に関する研究会、講演会などの開催

	1.「AFRコース」（Annual Flight Revue：年次フライトレビュー） 期　　間 ： 平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月の各週末、祭日 参加人数 ： 板倉滑空場で機長として飛行する操縦者全員 概　　要 ： 板倉滑空場にて、機長として飛行するパイロットに対して、クラブ規定により 1 年に一度義務付けられている AFR を、滑空機、動力滑空機、曳航機毎に実施した。
	2.「特定操縦技能審査] 期　　間 ： 平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月の各週末、祭日 参加人数 ： 板倉滑空場で機長として飛行する操縦者 （37 名受験） 概　　要 ： 法制化された特定操縦技能審査(機長として飛行する操縦者は 2 年毎の受験が義務づけられる)を実施する態勢を整えた。
	3.「操縦インストラクター・曳航パイロットの任用・リフレッシュ訓練」 期　　間 :平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月 参加人数 :操縦教官 19 名（新規任用 3 名）、曳航パイロット 7 名 概　　要 :特定操縦技能審査制度、AFR 規定、インストラクター任用規定に従い実施した。

Ⅵ. グライダーに関する出版物等による航空思想の普及

Japan Soaring Club techsoup パソコンソフト寄贈プログラム テックスープ 日本 Google for Nonprofits BLIPMAP UniViewer	**1.**「会員・外部向けインターネットサービスの活用」 ① クラブホームページ ② クラブ公式ブログ ③ クラブ公式 Twitter, Facebook ④ ソフトウエア寄贈プログラム「テックスープ」との寄贈プログラム契約 ⑤ Google 社の非営利団体向けプログラム"Google Apps for Nonprofits" の利用 **2.**「広報誌（クラブニュース）の制作」（1 年に 4 回発行） **3.**「グライダー気象情報の普及促進」 日本グライダークラブにより紹介されたブリップマップ（BLIPMAP）は滑空界で広く活用されている。

B.公益目的事業 2 （公 2 航空情報提供事業）

Ⅰ. 板倉フライトサービスの運用

	「飛行援助用航空局」 板倉 FLIGHT SERVICE （130.675Mhz） 期　間 ：平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月の運航日 概　要 ：板倉滑空場付近の航空の安全を図るため、運航日毎にフライトサービス担当者を指名し、周辺を飛行する航空機からの飛行情報の要求に的確に対応できる態勢を整えている。 **AIC041/14** 板倉 FS：滑空場周辺半径 5NM, 5000ft 以下

Ⅱ. 緊急時の場外離着陸場の提供、維持管理

	1. 宇都宮基地訓練ヘリの場外離着陸場としての使用承諾 平成 27 年 9 月、陸自宇都宮航空学校より、板倉滑空場を訓練ヘリの予防着陸のため、緊急時の場外離着陸場として使用したいとの要請があり航空の安全の観点から、年度毎の使用承諾書を締結している。 **2.** ドクターヘリのランデブーポイントの提供

C.クラブ組織の整備

定款および内部規定に従った公益事業執行体制による業務遂行により、組織の充実を図ると共に、会員データベースの構築など、事務作業の効率化を目指した。

D.その他クラブの目的に必要な事業

Ⅰ. 人材

1.「若年層支援プログラム」

①ラインボーイ制度

期　　間　:平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月　週末・祭日
参加人数　:44 名
概　　要　:若年層支援プログラムの一環として、大学航空部員および若手操縦者を対象に、若年層が運航に参加することでクラブに親しみ、入会しやすくする方策を実施している。

②ユース会員制度
③ジュニア会員制度

概　　要　:若年層支援プログラムの一環として、若年会員の拡大に努めた
現ユース会員 11 名、 ジュニア会員 2 名

2.「世界大会への選手・チーム・クルーとしての積極的な参加・協力」

① プレワールド滑空選手権・チェコナショナル滑空選手権に出場
期　　間　:平成 29 年 6 月 25 日～7 月 7 日
概　　要　:チェコ プシーブラムで開催されたプレワールド滑空選手権（兼チェコナショナル滑空選手権）に、丸山会員が ASG29E18m で出場し、8 位（23 機中）の成績を収めた。

② 滑空機曲技世界選手権に出場
期　　間　:平成 29 年 7 月 27 日～8 月 5 日
概　　要　:ポーランド トルンで開催された滑空機曲技世界選手権に、酒井会員が Swift S-1 で出場した。

Ⅱ. 機材

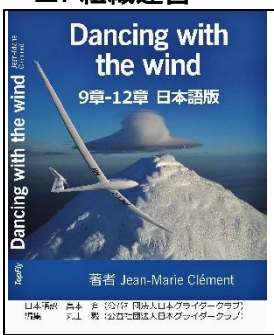
1.「騒音対策（曳航機）」

概　　要　:騒音対策のため滑空場周辺に 4 ヶ所の飛行規制空域を設定し、その上空を避けて飛行することを取り決め、また時間帯により曳航経路を変更すること及び騒音の低い動力滑空機を曳航に活用し、また滑走路 33 の路面を整備して発航位置を 150m 下流に移動し、北側への曳航上昇高度を高くする等の対策を講じている。騒音クレームには板倉町役場とも連携して真摯に対応している。

2.「滑空場の整備」

期　　間　:平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月
概　　要　:クラブ員有志により滑走路 33 南側部分の路面平坦化が進み、有効滑走路長が 150m 伸びている。今後も安全に滑走路の効率的利用方法の検討をしていく。

Ⅲ. 組織運営



1.「安全活動の強化」

① ヒヤリハットレポートの促進、活用により経験を共有し、航空事故防止を図った。:平成 29 年度の提出数 18
②インストラクターミーティングを適宜開催し教育体系の充実を図った。
③毎飛行終了後にディブリーフィングを開催し、安全情報を共有した。
④高高度飛行の参考となる書籍「Dancing with the wind（ジャン-マリー　クレマン著）」をクラブ有志で翻訳して電子書籍で販売し、国内滑空界への普及を図った

2.「地域との交流」

① 渡良瀬遊水地フェスティバルへ参加　　平成 29 年 9 月 3 日
遊水地周辺の各種スポーツ団体が集う、栃木県主催のフェスティバルに参加し、機体地上展示、ハンドローンチグライダー作成教室の開催、会場上空の展示飛行、体験搭乗を実施した。
② 渡良瀬遊水地クリーン作戦に参加　　平成 29 年 4 月 15 日
渡良瀬遊水地周辺で活動する団体の清掃イベントに協調し、滑空場周辺の清掃作業を行った。
③ ふるさと納税への対応
会員有志が板倉町へふるさと納税を行い、地域との交流を図った。また納税の返礼品としてグライダー体験飛行を提供した。
平成 29 年度 ふるさと納税体験飛行申込者 27 名

3.「国内グライダークラブの組織化、交流、協力態勢の確立等への支援」

① 第 5 回全国グライダークラブミーティングの開催
期　　間　:平成 29 年 10 月 14 日･15 日　北海道滝川市
概　　要　:全国のグライダークラブ運営担当者が集まり、統一的な操縦教育基準や安全対策の構築、運航業務支援、知識･技術の共有、人材交流、講習会･イベントの相互案内策定について討議した。当クラブより吉田理事長、丸山理事が参加した。

② 統一的操縦教育教材の作成に協力
英国インストラクターマニュアルの翻訳支援、および日本版グライダーインストラクターマニュアル作成支援を行った。

③ 安全情報の共有
他団体とヒヤリハットレポートの共有化、自衛隊訓練空域を飛行する際の空域調整申請の統一化を図った。

4.「他団体会員の相互受け入れ･協調」

① 板倉滑空場で合宿･練習･体験搭乗会を行った諸団体
九州大航空部　慶應大学航空部　東京工業大学 OB 会　三田ソアリングクラブ　FOX アクロチーム
期　　間　:平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月の週末･祭日
概　　要　:上記団体の飛行活動について運航支援を行い、航空スポーツの発展と普及に努めた。

② 世界各国のグライダー関係団体などと活発な交流を行った。
世界各国（アメリカ、オーストラリア、イギリスなど）のグライダー団体の会員などが板倉滑空場を訪れ、情報の交換などを行い交流を深めた。

5.「他団体の連絡会等への出席・交流」

① 国際滑空委員会（IGC）会議に出席 （ドイツ フロイデンシュタット）
期　間 ：平成 30 年 3 月 2 日・3 日
概　要 ：丸山会員が IGC 日本副委員として出席し、グライダースポーツのルール変更、競技会開催地等について討議した。

② 渡良瀬スカイスポーツ協議会の連絡会議への参加（毎月 1 回開催）
渡良瀬遊水地周辺のスポーツ団体との情報交換。

③ 関東地区空中衝突防止会議（米空軍 横田基地）への参加
平成 29 年 4 月 15 日 飛行空域等の情報交換

④ 関東西部地区飛行連絡会（航空自衛隊 入間基地）への参加
平成 29 年 7 月 19 日 飛行空域等の情報交換

⑤ 宇都宮航空連絡会（陸上自衛隊 北宇都宮駐屯地）への参加
平成 29 年 12 月 7 日 飛行空域等の情報交換

⑥ 下総基地周辺飛行安全会同（海上自衛隊 下総基地）への参加
平成 30 年 2 月 2 日 飛行空域等の情報交換

⑦ 航空安全講習会に講師として参加
期　間 ：平成 29 年 12 月 2 日（仙台）
概　要 ：航空 5 団体主催、航空局後援の航空安全講習会で、丸山会員が「グライダー競技の世界とそこから得られる安全への考え」について講演した。

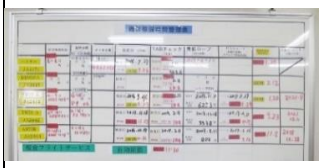
期　間 ：平成 30 年 1 月 13 日（名古屋）
概　要 ：航空 5 団体主催、航空局後援の航空安全講習会で、櫻井会員が「スピン事故防止について」の題目で講演した。

⑧ 滑空スポーツ講習会に講師として参加
期　間 ：平成 30 年 3 月 10 日（札幌）
概　要 ：日本滑空協会主催の滑空スポーツ講習会に丸山会員が「ソアリング、そして、クロスカントリー。ステップアップを自ら考えられるパイロットになるためには？」の題目で講演した。

⑨ 異常姿勢回避講習会（EMFT）に講師として参加
期　間 ：
平成 29 年　9 月 23 日・24 日（北海道滑空協会 滝川スカイパーク）
平成 29 年　9 月 30 日・10 月 1 日（中部日本航空連盟 飛騨エアパーク）
平成 29 年 10 月 20 日- 22 日（長野県航空協会 長野滑空場）
平成 29 年 10 月 28 日・29 日（NPO 関宿滑空場）
平成 30 年　2 月 10 日・11 日（静岡県航空協会 富士川滑空場）
概　要 ：異常姿勢回避講習会（座学および実技フライト）に櫻井会員が講師として参加した。

6.「ウェーブフライトプロジェクト」（山岳波による滑翔記録飛行）

期　間 ：平成 28 年 4 月～平成 29 年 3 月
概　要 ：高性能滑空機を使用し、ウェーブによる日本アルプス方面から東北地方、さらには北海道に至る長距離、高高度飛行の研究、飛行探査を会員の田上、丸山、市川会員を中心として行った。

	**7.**「板倉滑空場　事務所の充実」 概　　要　： 常勤職員（金曜－月曜）の配置、インターネットを利用して気象情報の取得、解析する態勢の充実、会員データベース、会計システムの整備活用、資料室の整備、航空機の整備期限等の日程管理掲示板の設置、毎飛行日ごとの安全ミーティング開催スペースの充実を図った。
	8.「再生可能エネルギー（太陽光発電システム）の活用、財政基盤の強化」 概　　要　： 再生可能エネルギーの活用を目的として、太陽光発電システムを格納庫屋根に設置することで、省エネおよび光熱費の軽減に寄与している。
	9.「ライブカメラを用いた滑空場運航情報提供」 概　　要　：ライブカメラを設置し、滑走路の状況を常に視認できる態勢をとっている。（クラブホームページから見られる）
	10.「クラブチームウエアの作成」 概　　要　：クラブチームウエアとしてロゴ入りのフリースを作成した。
	11.「助成金申請」 概　　要　：クラブ財政改善のため「公益財団法人 JKA、宝くじ、郵便貯金」などに助成金の申請を行った。

E. 活動の記録

1. 発航回数（平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月） ＊日本でも有数規模のクラブ運営を実施。

総曳航回数: **1112** 回 （曳航機内訳:ハスキー **1096** 回 ディモナ **16** 回）

ディモナ飛行回数: **31** 回

動力滑空機（SL）自力飛行回数: **31** 回 [滑空機総飛行回数:**1174** 回]

	機種	飛行時間	飛行回数
個人・グループ機	JA2542 PW5	30:33	26
	JA2254 MiniNimbus-c	0	0
	JA08AP Discus-a	58:07	22
	JA22KF Discus-b	36:11	18
	JA58HD Discus-2b	119:06	52
	JA2310 ASW20	7:48	4
	JA2485 ASW24	136:31	63
	JA22KJ ASG29E	63:39	21
	JA2395 DG300	32:29	9
	JA2411 DG300	64:19	47
	JA2316 DG400	11:30	8
	JA40DG DG400	48:38	19
	JA800A DG800A	34:40	20
	JA52YH LS3a	3:05	1
	JA24UK LS4	15:26	15
	JA2516 LS6C-18	0	0
	JA11AA LS8-18	15:14	5
	JA20KA MDM-1 Fox	11:56	42
	JA21TD DuoDiscusT	86:30	33
	JA22MX DuoDiscusXT	45:43	33
	JA22AT ArcusT	103:12	39
	総飛行時間	**924:37**	—
	総飛行回数	—	**477**
クラブ機	JA2444 G102 AstirⅢb	93:02	79
	JA2442 G103A TwinⅡ	152:39	284
	JA2412 G103C TwinⅢ	142:01	303
	JA2845 Super Dimona	11:30	31
	JA4171 Husky	174:15	1112
	総飛行時間 (滑空機)	**399:12**	—
	総飛行回数 (滑空機)	—	**697**
総計	総飛行時間 (滑空機)	**1323:49**	**—**
	総飛行回数 (滑空機)	**—**	**1174**

2. 総会員数: **141** 名 (内 女性会員 11 名)

内訳:正会員 **95** 名 （内 ユース会員 10 名、ジュニア会員 2 名） 賛助会員 **46** 名（内 ユース会員 1 名）

3. 操縦士技能証明取得: 自家用操縦士（上級滑空機）実地試験合格 **2**名

4. 整備士資格取得: 二等航空運航整備士（上級滑空機）実地試験合格 **4** 名

5.その他の会員活動

 	「海外での訓練飛行」 ①平成 29 年 7 月～8 月： フランスアルプス　田上会員 ②平成 29 年 7 月～8 月： フランスアルプス　櫻井会員 ③平成 29 年 11 月　　： ナミビア（南西アフリカ）丸山会員 ④平成 29 年 11 月～12 月、平成 30 年 1 月～2 月： 　ワイケリー（オーストラリア）渡邊、稲垣、宇賀神、畠本会員
	「ブライトリング　ワールドツアーに参加」 平成 29 年 5 月、櫻井会員がブライトリング　ワールドツアーの DC3 に搭乗した。

記

平成 29 年度事業報告には「一般社団法人および一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する付属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

平成 30 年　4 月　1 日
公益社団法人　日本グライダークラブ

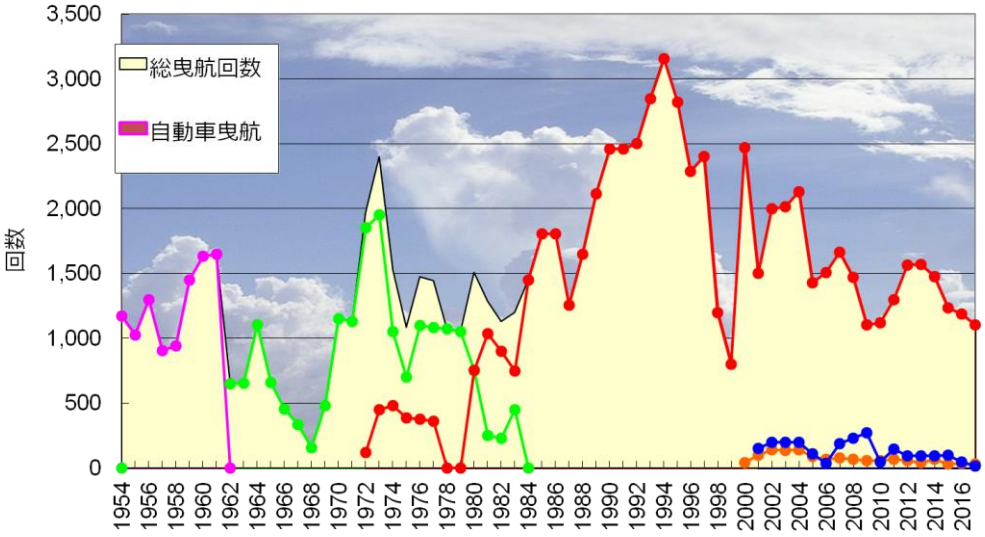
公益社団法人　日本グライダークラブ
URL：www.glider.jp

◆板倉滑空場
住所：〒374-0101
群馬県邑楽郡板倉町除川 1286
TEL/FAX：0276-77-0830

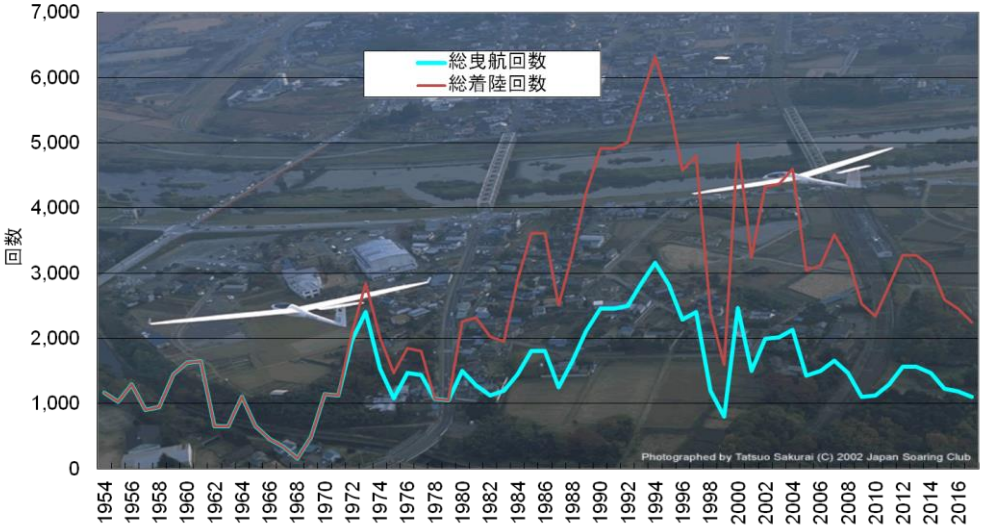
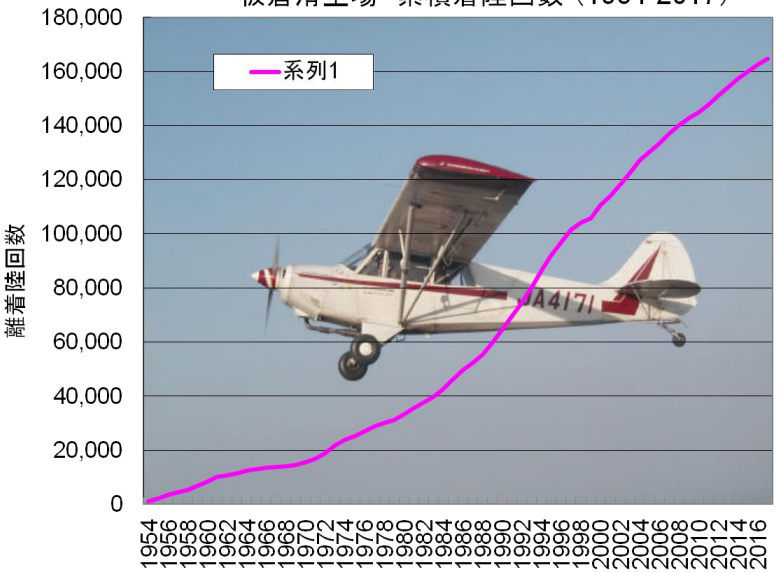
◆東京事務所
住所：〒105-0004
東京都港区新橋 1-18-1
（航空会館 9F）
TEL/FAX：03-3591-7728
E-mail:　shinbashi-office@glider.jp

（公益社団法人）日本グライダークラブ　統計資料

曳航回数推移（1954-2017）



総曳航回数・総離着陸回数対比（1954 - 2017）



板倉滑空場　累積着陸回数（1954-2017）